

舟渡高齢者在宅サービスセンター

症 例 概 要 利用者氏名：M・T様（70代 男性 要介護3）

利用期間：平成29年12月上旬～現在利用中

経過：アルツハイマー型認知症の初期段階で家族が直面する負担に対して、認知症専門デイを利用し本人が以前のように活躍した姿を取り戻す事で「本人の居場所作り」に成功し、その人らしさを追求する事で認知症進行の緩和に繋げた症例。

内 容

アルツハイマー型認知症のため短期記憶の保持が難しく、H28年11月初めて外出中に道に迷い警察に保護され、それ以降外出したら自宅に戻れなくなり、毎回妻が付き添いをする状況が続きました。また徘徊防止に自宅の玄関に鍵をかけるなどの工夫をするも妻へ暴言が増え続け、H29年12月介護負担軽減を目的に当デイサービス（一般デイ）を利用する運びとなりました。

初日は落ち着かず上着を探し帰ろうとするなど随時見守りが必要で、またデイから帰宅後も顔は陰しく、徘徊や暴言は解消できず、妻の介護負担も増大傾向にありました。認知症進行の初期段階でおこる行動心理症状に対して、それに初めて直面していく家族の負担は計り知れず、そもそものケアプランの「認知症状を緩和し家族の負担を軽減していく」という目標を達成できない状況から地域包括職員、居宅ケアマネの協力を仰ぎ担当者会議を開催、H29.1月～認知デイに教室移行を提案し、個別ケアを行う事で「居場所作り」から行動心理症状を緩和し目標達成を行う事で同意を得ました。認知デイでは、アセスメント時に「尺八の先生をやっていた」という点に着目し、以前のように生き活きた表情で演奏する本人の姿を想像しながら、①メリハリのない日常を改善、②人から必要とされている事を実感する という2点を目標に掲げて介入する事を決めました。自宅を訪問し、尺八を演奏して頂くも10年のブランクがある事から吹いても音が出せない状況でした。デイで尺八を披露する事で居場所を模索する考えも、「仮に出来なかったら逆効果になってしまう」という迷いもありましたが、認知デイの対応力を信じ尺八を預かる事にしました。最初は嫌がる本人を何とか説得し尺八を吹いてもらい、上手く吹けなかったが指はしっかり動いており練習を重ねれば以前のようにまた吹くことができると確信しました。デイで尺八演奏をする度に手続き記憶は戻り、リクエスト曲を演奏する事も出来るまでとなりました。現在では毎回通所日に披露して頂き、他の重度の認知症の方が指でリズムを取るほど、心地の良い音色をフロアに響かせて下さっています。またデイ帰宅後は生き活きた表情をしていると家族から感謝の言葉を頂き、介護負担軽減に繋げる事ができました。今では布団干しなど自宅での役割も増え、家族孝行されるまでになりました。認知症ケアではまずその人らしさを最大限に活かし「居場所」を作る事から始まるという成功例の一つとなりました。